

2025年度 教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	6人	4人	1人	5人	16人	9人	13人	0人	18人	14.6人	
計	6人	4人	1人	5人	16人	9人	13人	0人	18人	—	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤	安全学	15	橘幸子 他	兼任
		教育原理	15	趙雪梅	兼任
		教育方法論	15	趙雪梅	兼任
		統計学	15	塩見格一	兼任
		情報科学	15	塩見格一	兼任
		人間工学	15	塩見格一	兼任
基礎	人間と生活	心理学	15	青井利哉	兼任
		生命倫理	15	高木祐介	兼任
		英語Ⅰ（社会と文化）	15	浅井純子	兼任
		英語Ⅱ（健康と医療）	15	浅井純子	兼任
		英語Ⅲ（総合演習）	15	浅井純子	兼任
		英会話（医療系英会話）	15	浅井純子	兼任
		スポーツ医学	15	林浩嗣	兼任
		スポーツ栄養学	8	鳴瀬碧	兼任
		体育Ⅰ	8	南部則雄	兼任
		体育Ⅱ	15	南部則雄	兼任
基礎	社会の理解	フレッシュャーズセミナーⅠ	15	堀秀昭	専任
		フレッシュャーズセミナーⅡ	15	堀秀昭 他	専任・兼任
		人間関係論	15	青井利哉	兼任
		日本国憲法	15	横井正信	兼任
		コーチング論	15	長谷川優樹	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学総論	15	飯野哲	兼任
		解剖学演習Ⅰ	30	鳥越甲順	専任
		解剖学演習Ⅱ	30	鳥越甲順	専任
		解剖学演習Ⅲ	15	鳥越甲順	専任
		生理学	15	猪口徳一	兼任
		生理学演習	15	猪口徳一	兼任

		運動学	30	村田寛一郎	専任
		運動学演習(バイオメカニクス)	15	藤本昭 他	専任
		人間発達学	15	青井利哉 他	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	青井利哉	兼任
		内科学Ⅰ	15	供田文宏	兼任
		内科学Ⅱ	15	供田文宏 他	兼任
		臨床神経学	15	佐藤万美子	専任
		臨床神経学演習	15	佐藤万美子	専任
		整形外科学	15	大橋義徳	兼任
		スポーツ整形外科	15	小坂正裕	兼任
		精神医学	15	小俣直人	兼任
		病理学	8	供田文宏	兼任
		リハビリテーション医学診断学	8	林浩嗣	兼任
		リハビリテーション医学治療学	8	林浩嗣	兼任
		臨床栄養学	8	中島有紀	兼任
		薬理学	8	村松郁延	兼任
		救急処置	15	菅野智也	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	堀秀昭	専任
		保健医療論	8	山口明夫	専任
		チーム医療論	8	浅井智恵美	兼任
		環境と健康	8	出口洋二	兼任
		ナラティブ概論	8	石田圭二	兼任
		社会保障制度	8	堀秀昭	専任
		スポーツ内科学	15	林浩嗣	兼任
		トレーニング科学Ⅱ	15	菅野智也	専任
専門	基礎理学療法学	基礎理学療法学	15	斉木理友	専任
		運動発達学	15	栗田梨渚	専任
		研究方法論	15	藤本昭	専任
		研究方法論演習	15	堀秀昭 他	専任
		理学療法研究	45	堀秀昭 他	専任
専門	理学療法管理学	理学療法概論	15	藤本昭	専任
		理学療法基礎理論	15	斉木理友	専任

専門	理学療法評価学	基礎理学療法評価学	8	野村友美	専任
		神経系検査法	15	斉木理友	専任
		運動器系検査法Ⅰ（関節可動域測定）	15	東伸英	専任
		運動器系検査法Ⅱ（筋力測定）	15	菅野智也	専任
		運動・動作分析学	15	斉木理友	専任
専門	理学療法治療学	基礎運動治療技術学	15	近藤仁	専任
		運動器系理学療法学Ⅰ（骨折）	15	菅野智也	専任
		運動器系理学療法学Ⅱ（スポーツ外傷）	15	近藤仁	専任
		運動器系理学療法学Ⅲ（脊椎・関節障害）	15	東伸英	専任
		神経系理学療法学	15	栗田梨渚	専任
		中枢神経系理学療法学Ⅰ（脳血管障害評価）	15	藤田和樹	専任
		中枢神経系理学療法学Ⅱ（脳血管障害治療）	15	藤田和樹	専任
		中枢神経系理学療法学Ⅲ（パーキンソン・失調症）	15	津嶋勇一	兼任
		発達障害系理学療法学	15	栗田梨渚	専任
		発達障害系理学療法学演習	15	栗田梨渚	専任
		内部障害系理学療法学	30	相良絵利華	専任
		理学療法評価治療演習	30	堀秀昭 他	専任
		物理療法学	15	村田寛一郎	専任
		物理療法学演習	15	村田寛一郎	専任
		日常生活活動評価学	15	相良絵利華	専任
		日常生活動作指導法	15	野村友美	専任
		義肢・装具学	30	菅原慎弥 他	専任・兼任
		神経系理学療法治療技術	8	藤田和樹	専任
		運動器系治療技術Ⅰ（運動機能障害の評価と治療）	15	斉木理友	専任
		運動器系治療技術Ⅱ（徒手の理学療法）	15	斉木理友	専任
専門	地域理学療法学	地域理学療法学	15	藤本昭	専任
		生活環境整備学	15	野村友美	専任
専門	臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	45時間	堀秀昭 他	専任
		臨床見学実習Ⅱ	45時間	堀秀昭 他	専任
		臨床評価実習	135時間	堀秀昭 他	専任
		臨床実習Ⅰ	315時間	堀秀昭 他	専任

		臨床実習Ⅱ	360時間	堀秀昭 他	専任
--	--	-------	-------	-------	----

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
-----------------	------	-------	------

指導者の指導のもと、対象者との会話、評価・治療手技の観察などを行う	1年後期	臨床見学実習Ⅰ	1年後期
指導者の指導・監督のもと、理学療法の基本的な評価を行う	2年後期	臨床評価実習	2年後期
指導者の指導・監督のもとで治療の一部を体験し、その有効性などについて言及する	3年後期	臨床実習Ⅰ	3年後期
通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションで理学療法士が携わるときに必要な知識を身につける	3年後期	臨床見学実習Ⅱ	3年後期
指導者の指導・監督のもとで理学療法評価から治療を体験し、問題解決能力、判断力を養い、基本的理学療法が行える	4年前期	臨床実習Ⅱ	4年前期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3

	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	学長 山口明夫
組織の開催頻度	年6回程度
組織の取り組み内容	点検・評価項目および方法の設定ならびに変更 自己点検及び自己評価の実施 第三者評価実行委員会の設置と評価の実施 自己点検・評価報告書の作成 自己点検・評価結果の公表
自己点検・評価結果の公表	H P で公表（URL：https://www.fukui-hsu.ac.jp/about/data/）

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務会議
	委員構成等	学部長、リハビリテーション学科長（OT専攻長兼務）、看護学科長、PT専攻長、OT専攻長、教員3名、事務部長、事務員1名
	改善の仕組みの実際	毎年1月に作成したシラバスを適宜確認の上、授業科目担当者に修正依頼

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2025年6月にリハビリテーション教育評価機構の評価を受審し、適合の評価を受けている。 2023年3月に大学基準協会の大学基準に適合しているとの認定を頂いた。是正勧告1点、改善課題4点の指摘事項が付された毎年、自己点検・評価委員会で指摘事項の改善に向けた進捗状況が審議されており、2026年7月に改善報告書を提出予定である。
